

令和 6 年 6 月 7 日現在

機関番号：13802

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K10854

研究課題名（和文）妊娠期のメンタルヘルスアセスメント尺度の開発

研究課題名（英文）The Development of a Mental Health Assessment Scale During Pregnancy

研究代表者

斉本 美津子（Saimoto, Mitsuko）

浜松医科大学・医学部・助教

研究者番号：60347383

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000円

研究成果の概要（和文）：我が国の母子の命を守るために妊娠期のメンタルヘルスの維持増進を目的とする「日本版妊娠期メンタルヘルスアセスメント尺度」の開発に取り組んだ。調査の対象は豊橋市内の妊婦356名に質問紙調査を行い質問項目の妥当性と質問紙の信頼性妥当性を検証した。その結果、信頼性を示すChronbach 係数は.93、質問紙票を構成する質問項目の妥当性は因子分析を行い、5つの因子に集約された。妊婦のメンタルヘルスを評価する質問紙と使用できる可能性を確認した。再現性を確認するために浜松市の妊婦230名に同じ質問紙票を用いて調査を行った。その結果、Chronbach .91であり、一般化の可能性について示唆を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

妊婦のメンタルヘルスを評価する方法は精神疾患を評価する方法が一般的である。また国内外において妊婦がメンタルヘルスの不調を起こさず、育児する方法と支援内容が確立されていない。そこで本研究は我が国で活用できる日本版妊娠期メンタルヘルスアセスメント尺度の開発に取り組み、尺度として妊娠期に使用が可能であるかを検証した。その結果、妊婦の問診に使用でき、かつ介入可能な質問項目であること、さらに選択された項目の数と内容によって、メンタルヘルスの不調を推測できることが示唆された。したがって本研究の結果は妊婦保健指導及び家庭訪問に活用でき、母親の命を守り産後の母子関係を促進することに寄与できると考える。

研究成果の概要（英文）：This project involved the development of the Japanese version of the Pregnancy Mental Health Assessment Scale, which aims to maintain and promote mental health during pregnancy in order to protect the lives of mothers and children in our country. The questionnaire developed consisted of 70 questions. The questionnaire was conducted on 356 pregnant women in Toyohashi City to verify the validity of the questionnaire items and the reliability validity of the questionnaire. As a result, the Chronbach alpha coefficient, which indicates reliability, was .93, and the validity of the questionnaire items was aggregated into five factors through factor analysis. The questionnaire was confirmed to have the potential to be used as a questionnaire to assess the mental health of pregnant women. The same questionnaire was surveyed using the same questionnaire to 230 pregnant women in Hamamatsu City to confirm its reproducibility. The results showed a Chronbach .91, suggesting generalizability.

研究分野：母子関係 妊婦のメンタルヘルス

キーワード：メンタルヘルス 妊婦 愛着形成 予防

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

我が国の妊産婦死亡率は、3.5/10万を示し(母子の主なる統計2018、2019)、先進国の中で安全に出産ができる国である。しかし、2005年から2014年の10年間、東京23区で自殺をした妊婦は63名存在し、妊産婦死亡率の約2倍であった。妊娠出産は病気ではないが、女性が妊娠し、身体の変化とともに精神のバランスを崩すだけでなく、出産以外で命を落とす現状であることは否定できない。

産後のうつは、児童虐待の誘因といわれ、2002年より各自治体は、産後うつ病のスクリーニングの方法として「エジンバラのうつ病評価票(以下EPDS)」を導入した。EPDSを用いた評価は、産後1ヶ月が適切とされている。しかしながら、2016年、児童虐待相談対応数は、12万件を超え、減少する傾向はみられない。死亡虐待の約4割は、4カ月未満の乳児であることを考えると、スクリーニングのタイミングが重要であると考えられる。

産後に着目されやすいメンタルヘルスであるが、妊娠中の母親にとって育児をしようとする動機付けは、妊婦の精神健康度が影響する(斉本2006)。

また産後の母親の精神健康度が、母子相互作用の質を左右し、母子間で行われる良好な母子相互作用が子どもの成長発達を促す効果がある(斉本2002)。つまり母子の命を守り、子どもの健やかな成長の促進するためには、妊婦のメンタルヘルスを守ることが必要であり、かつ妊産婦の自殺や児童虐待に対して予防する効果があると考えた。しかし臨床において妊娠期のメンタルヘルスを評価する方法が、国内外を検索したがみあたらない。我が国は、臨床と先行研究ともに、妊娠期のメンタルヘルスを評価する尺度が開発されてこなかった。国内の現状は、海外の尺度を翻訳した質問紙票やエジンバラ産後うつ病評価票を用いて、妊娠期のメンタルヘルスを評価している。母親の育児期と妊娠期の心身の変化を評価する方法は、産後のメンタルヘルスを評価する方法では限界がある。そこで申請者が作成した日本語版妊娠期メンタルヘルスアセスメント尺度(斉本2018)を実用化し、我が国の母子の命を支えたいと考えた。

2. 研究の目的

日本版妊娠期メンタルヘルスアセスメント尺度は、妊娠期のメンタルヘルスをアセスメントすることが可能な尺度であるかを検証する。

3. 研究の方法

対象

本調査の趣旨に同意し、協力の得られた妊婦543名。妊娠経過の異常は問わず、日本語を母国語とした。

調査期間

2019年4月から2023年6月まで。

調査場所

A 県 B 市 C クリニック産婦人科外来・母親学級会場と D 県 E 市 F 保健センターにて質問紙調査を行った。

調査方法

A 県 B 市 C クリニック産婦人科外来・母親学級会場は、母親学級、妊婦健康診査及び妊婦保健指導終了後、調査の趣旨を説明し、同意の得られた妊婦に質問紙の記入を依頼した。質問紙の回収はその場で行った。D 県 E 市 F 保健センター会場は、母子健康手帳交付のために来所した妊婦を対象に本研究の趣旨について記載した説明文と質問紙をお渡しした。本調査に同意が得られた妊婦のみ回答をし、郵送にて回収した。

倫理的配慮は、所属機関の倫理委員会の承認を得て行っていること、プライバシーを守ることと質問紙の回答内容は、無記名であること、本研究以外の目的に使用しないことを口頭で説明または説明文書に記載し、約束をした。

調査内容

A 県 B 市 C クリニック産婦人科外来・母親学級会場の調査内容は、日本語版妊娠期メンタルヘルスアセスメント尺度と日本版 GHQ (日本語版 General Health Questionnaire)、日本版キャロル抑うつ自己評価尺度、2 質問法 (2-question Patient Health Questionnaire (PHQ-2)、対象者の妊娠週数、年齢、ソーシャルサポート、経済状況、母親の健康状態、既往歴、不妊治療の有無を含む内容で構成した。D 県 E 市 F 保健センターの母子健康手帳交付会場の調査内容は、日本語版妊娠期メンタルヘルスアセスメント尺度、対象者の妊娠週数、年齢、ソーシャルサポート、経済状況、母親の健康状態、既往歴、不妊治療の有無を含む内容で構成した。

分析方法

統計ソフト SPSS を使用し、日本語版妊娠期のメンタルヘルス尺度の信頼性と妥当性の検証を行った。質問紙の信頼性を確認するために A 県 B 市 C クリニックと D 県 E 市 F 保健センターの各々の回答結果の Chronbach's α を算出した。内容的妥当性の検証は、因子分析を行った。構成概念の妥当性は日本語版妊娠期のメンタルヘルス尺度と日本版 GHQ (日本語版 General Health Questionnaire)、日本版キャロル抑うつ自己評価尺度、2 質問法 (2-question Patient Health Questionnaire (PHQ-2) の相関係数の算出と ROC 分析を行った。また妊婦のメンタルヘルスの特性を分類するために質問紙を構成する 70 項目の質問項目に Spearman の相関係数を算出した。

4. 研究成果

A 県 B 市 C クリニック産婦人科外来での回答者は、328 名、有効回答数は 260 名 (79.3%)。妊婦の平均年齢は、 30.1 ± 0.6 歳、妊娠週数 30.5 ± 1 週。初産婦 162 名 (76.2%)、経産婦 98 名 (37.7%)。主成分分析の結果、抽出後の累積 58.56%、質問項目 70 項目は 49 項目に集約された。Chronbach 係数は .93 であった。主成分分析の結果、因子構造は 7 因子であった。「実母との関係」、「ストレスとトラウマ」、「母親役割の準備」、「子どもへの愛着」、「夫婦関係と

妊娠の受容」「友人との関係」「妊娠生活への適応」とした。

D 県 E 市 F 保健センターでの回答者は 270 名、有効回答数は、215 名(79.6%)。33.4 ± 4.2 歳、妊娠週数 25.6 ± 3.3 週。初産婦 108 名(50.2%)、経産婦 107(49.8%)。Chrobach 係数は.91 であった。主成分分析の結果、質問項目は 47項目に集約された。因子構造は 7 因子であった。因子名は、「実母との関係」「夫婦関係」「ストレス」「子どもへの愛着」「育児の準備行動」「友人関係」「睡眠」とした。日本語版妊娠期メンタルヘルスアセスメント尺度は、妊婦のメンタルヘルスの不調の要因を可視化し母親になることへの適応状態を推測する可能性を含んでいると考える。また、両施設の回答結果から日本語版妊娠期メンタルヘルスアセスメント尺度は、地域や環境によって左右されることが少なく、メンタルヘルスの不調に関する質問内容を偏りなく構成し、信頼性と妥当性のある質問紙であったと推察する。

次に日本語版妊娠期メンタルヘルスアセスメント尺度の得点と日本版 GHQ (日本語版 General Health Questionnaire)、日本版キャロル抑うつ自己評価尺度、2 質問法 (2-question Patient Health Questionnaire(PHQ-2))との相関関係を検証し、構成概念の妥当性を検証した。3 尺度と日本語版妊娠期アセスメント尺度の間には相関関係はみられなかった。また ROC 分析の結果、妊娠期のメンタルヘルスの不調を評価するための診断ツールとして使用できる可能性は低いことと治療を目的としたツールとしての使用は不可能であることが示唆された。

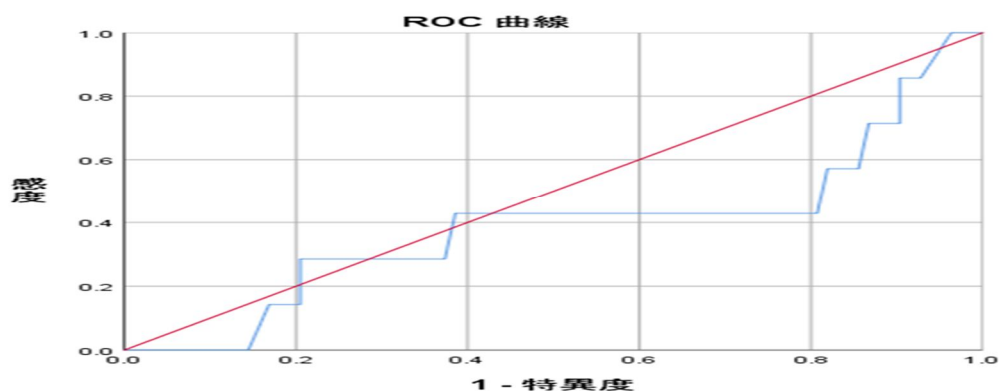


図2 日本語版妊娠期メンタルヘルスアセスメント尺度と GHQ

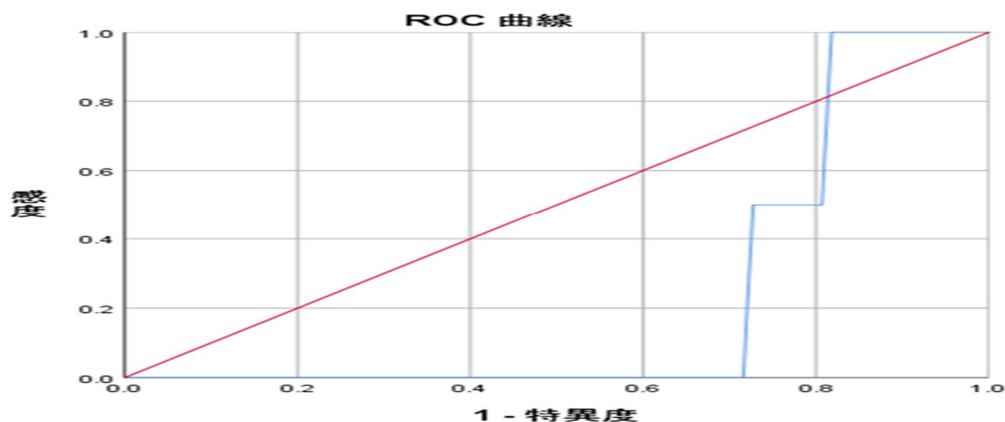


図3 日本語版妊娠期メンタルヘルスアセスメント尺度とキャロル抑うつ尺度

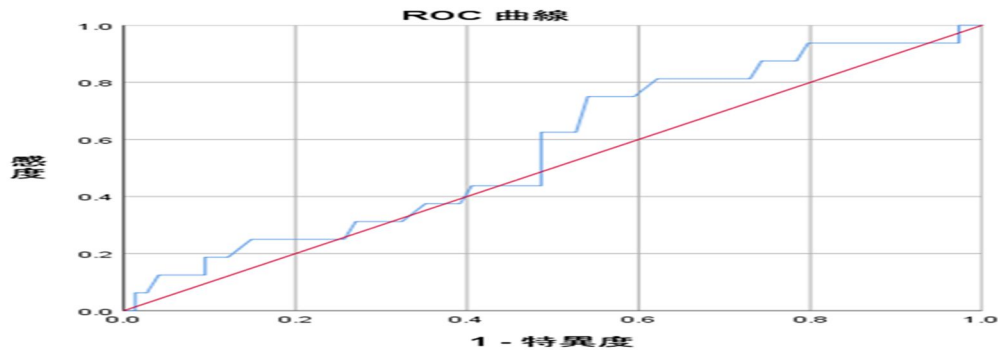


図4 日本語版妊娠期メンタルヘルスアセスメント尺度と2 質問法

最後に日本語版妊娠期メンタルヘルスアセスメント尺度を構成する 70 項目の質問項目から妊婦のメンタルヘルスの特性を可視化する方法を検討した。その結果、妊娠中に抑うつ傾向を示唆する項目が 27 項目、精神健康度を示唆する項目は 24 項目、うつ状態を示唆する項目は 14 項目であった。各々に該当する妊婦の数を算出した(表1)。

表1 日本語版妊娠期のメンタルヘルスアセスメント尺度によるメンタルヘルスの分類 (= 260)

項目	質問項目内該当数	人数
異常なし		N=173
うつ群	14 項目	N=22
抑うつ群	27 項目	N=49
神経症群	24 項目	N=16

本研究の結果より、日本語版妊娠期メンタルヘルスアセスメント尺度は、妊婦のメンタルヘルスの不調の種類や妊婦の特性を理解する一助となる可能性を示唆していた。妊娠期から母親に寄り添い、適切な介入を提供するためには妊婦の負担を最小限する方法で情報を収集し、適切なアセスメントにより、その人に合った支援目標が導き出される。妊娠期のメンタルヘルスの悪化を予防することは、産後のメンタルヘルスの増悪もしくは精神疾患の発病を防ぐだけでなく、母親と子どもが良好な母子関係を構築するためには、母親のメンタルヘルスの維持増進は要不可欠である(Solchany 2013)。

なぜならば母親と子どもとのやり取り、つまり母子相互作用の質が子どもの成長発達を左右する(Summer 1994)。したがって、今後の課題は日本語版妊娠期メンタルヘルスアセスメント尺度は産後の愛着形成を予測する質問紙として有効であるかを検証することである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 齊本美津子
2. 発表標題 妊娠期のメンタルヘルスを評価する質問項目の検証
3. 学会等名 日本プライマリケア連合学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Mitsuko Saimoto
2. 発表標題 Classification of mental health problems based on the Mental Health Assessment in Pregnancy Questionnaire
3. 学会等名 World Organization of National Colleges, Academies and Academic Associations (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	青木 慶子 (Aoki Keiko) (20456552)	浜松医科大学・医学部・特任研究員 (13802)	
研究分担者	田城 孝雄 (Tashi ro Takao) (60207024)	放送大学・教養学部・教授 (32508)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------